

2024. 3

徳島県

社会福祉士会だより

一般社団法人 徳島県社会福祉士会 広報誌
Tokushima Association Of Certified Social Workers

VOL. 27

未来につなぐソーシャルワーク実践



社会福祉士制度は、1987年5月26日に社会福祉の増進に寄与することを目的に制定された「社会福祉士及び介護福祉士法」を根拠としています。以来36年余の間、わたしたち社会福祉士は、福祉専門職として、生活に困難を抱える方々に対する相談援助を通して社会に貢献してきました。生活様式や価値観が多様化する社会情勢を反映し、社会福祉士が活躍する領域は多岐にわたっています。生活困窮、高齢、障がい、子ども家庭、地域福祉の機関や施設はもとより、保健医療、教育、司法にも活動の場を拓けています。行政や事業者等から中立の立場で、成年後見等の権利擁護や福祉サービスのコーディネートを担う独立型社会福祉士も増えています。



本会は、豊かな地域生活を実現するとともに、責任と誇りをもって、「より添い、ともに悩み、育み、創り出すソーシャルワーク実践」を具現化していくことを目的に、1993年6月に日本社会福祉士会徳島県支部として設立され、設立時は28名の会員からスタートいたしました。現在では、294名の会員を擁しており、8つの委員会を中心に活動を展開するとともに、会員の高い倫理観の育成と実践力の向上を図るため、体系的な研修を企画・実施しています。今後は、実践に基づいた調査研究の実施、実践者へのフィードバック、その結果としての社会提言など、活動の可視化にも取り組んでいきたいと考えております。

県民一人ひとりが自分らしく生きていける地域共生社会の実現のため、わたしたちはこれからも、専門職として身につけた知識や技術により、県民のQOL（生活の質）とウェルビーイング（人としての幸せ）向上の実践を続けていきます。

おわりに、役員一同、本会の目的達成のために真摯に行動し、成果をあげるために尽力することを約束いたします。徳島県民並びに会員のみなさまのご理解、ご支援を賜りますよう、今後ともよろしく願います。

会長 湯浅 雅志

 一般社団法人 徳島県社会福祉士会

〒770-0943 徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 徳島県立総合福祉センター3F

TEL 088-678-8041 FAX 088-678-8042

E-Mail info-tokushima@tacsw.jp URL <https://www.tacsw.jp/>

QRコード



第24回福祉実践セミナー

2023年6月25日（日）、第24回福祉実践セミナーを行い、21名の方々にご参加をいただきました。セミナーでは、それぞれの実践領域で、社会福祉士の倫理、行動規範を基盤として、クライアントが直面している生活課題や抱える不安に寄り添った支援と考察について、ご報告いただきました。私達も、自らの実践を振り返り、多くの気づきと共感を覚える機会となりました。

今後も、私たちは、社会福祉士としてさらなる実践を積み重ね、共有する機会をもっていきましょう。
(生涯研修センター 委員長 杉本 亜矢子)

実践報告①：気づき・発見・つなぎ～見逃さない支援体制づくりを目指して

社会福祉法人三好市社会福祉協議会 山城支所長 五島 美紀氏

〔概要〕

コロナ禍によりサロン活動等の地域の集まりが困難となり、地域の潜在していた課題が困窮といった形で表面化してきた。2020年は相談件数が前年比2割増であった。

そこで、地域の実情を把握するためにアンケートの実施、民生委員の定例会で課題を抱えている人の早期発見、共有、地域リーダー養成による相談機能の強化を行った。社協ソーシャルワーカーとして①地域アセスメント力、②課題整理力、③コーディネート力、④情報発信力が求められている。地域と共に考えていく、そして足りないところをサポートする。今あるモノをどう活用するのか、誰の何のために行うのかという視点を忘れずに事業に取り組んでいきたい。

実践報告②：社会的孤立・身寄りのないクライアントとSW実践の現実と課題

地方独立行政法人徳島県鳴門病院 患者サポートセンター副センター長・医療社会福祉課長 郡 章人氏

〔概要〕

身寄りのない人は入院も施設入所も断られることがある。身寄りのない人を医療機関側が躊躇する理由として、①医療同意、②医療費などの支払い事務、③未収入が生じた場合の対応 等がある。介護施設でも同じ理由がある。しかし、正当な理由無くサービス提供を断ってはいけない。

身寄りがない、社会的孤立に立たされているクライアントの支援は、まだまだ試行錯誤の段階。しかし、相談しても変わらなかったという結果にならないよう、社会福祉士は価値と倫理に基づき、クライアントの状況を評価し、適した支援を提供する役割がある。



福祉実践セミナーに参加して

小林 東

五島さんの実践報告では、三好市の現状から抱えている課題とつなぎかたを学ぶが出来ました。コロナの影響によって、これまで実施されていた活動継続が困難になり、潜在的な課題が表面化されるという状況においての実践。いかに地域に働きかけ、どのように気づきをもたらし、つないでいくか。この学びを自分の実践でも活かせるよう、求められている役割について考え直す良い機会になりました。

参加された方からの感想

社会福祉士としての覚悟

藍住町教育委員会 大下 薫

私は今春徳島県警察を退職し、社会福祉士となった。そして、初めて参加したのが本セミナーであった。特に、郡先生のプレゼンテーションでは、驚きと敬意を感じざるを得なかった。クライアントの生前のことはもとより死後のことまで先輩方はされるのだと感じ、自分もこの一員となって頑張っていく覚悟のようなものをこのプレゼンテーションで感じた。

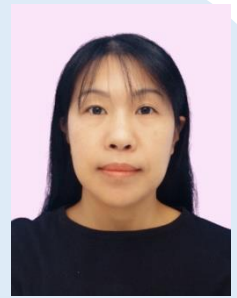
先輩方、日々お疲れ様です。

そして、社会福祉士としての自覚をありがとうございました。



こども家庭福祉委員会

委員長 漆原文子



こども家庭福祉委員会では、現在、毎月第1水曜日19時から21時に委員会を開催しております。

委員会では、昨年度に引き続きスクールソーシャルワーカーの養成をメインに研修会を実施しております。

研修会の開催方法としては、委員会のメンバーの方以外にも研修会に参加していただければとの思いから広く会員の方に案内をさせていただいております。そのため、研修会の形もハイブリット研修の形を取らせていただき、会場参加及びオンラインでの参加により多くの方に参加していただけるように対応させていただいております。現在の研修会の参加状況はオンラインでの参加の方が多く、メンバー以外の方にも参加いただいております。研修会の内容についてはメールにてご案内させていただきますので、興味関心を持たれた方は是非、研修会にご参加ください。

さて、すでにご存じの方もおいでになることと思いますが、こども家庭福祉の新たな認定資格として、こども家庭ソーシャルワーカーが2024年4月より導入されます。

こども家庭ソーシャルワーカーは、こども家庭福祉の現場にソーシャルワークの専門性を十分に身につけた人材を早期に輩出していくため、改正児童福祉法により創設された認定資格として養成が始まります。一定の実務経験のある有資格者や現任者が、国の基準を満たす認定機関が認定した研修等を受けることにより資格取得することが出来るようになっております。

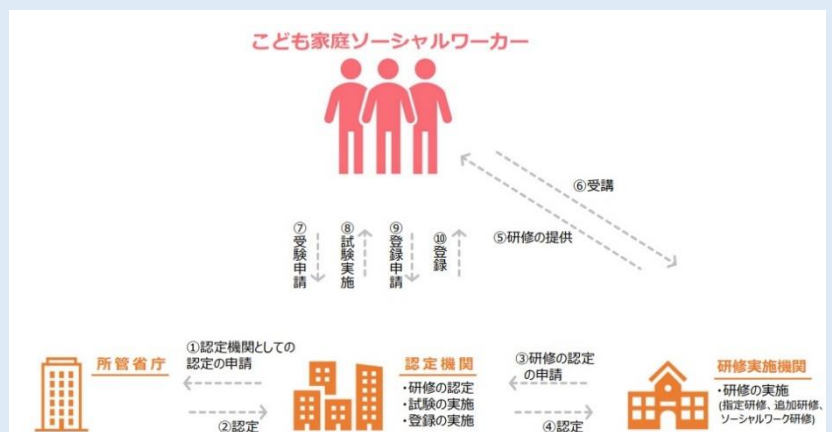
主に児童や家庭への相談支援等によるソーシャルワークを行う「児童相談所や市町村（こども家庭センター）、児童福祉施設」への配置が想定されており、保有する国家資格や、こども家庭に関する相談援助の実務経験年数ごとに資格取得ルートが分かれています。今後、資格取得方法等について委員会において情報提供および情報共有を行っていきたいと思っています。

徳島県においては、2023年6月より「子どものリスク対応支援チーム派遣事業」が実施されております。心の問題や精神的な不調など、様々なリスクを抱える子どもたちに対して、支援体制の充実を図るためにスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーに加え、専門的な医学的見地から新たに精神科医による子どもの支援対応チーム（CRT）が学校に派遣されております。特に希死念慮や自傷行為等の自殺関連行動や、心のリスク状態にある子どもへの「危機対応」と「予防的対応」の両面から学校からの要望に応じて派遣されております。現在、オーバードーズ（薬物の過剰摂取）の問題なども大きく取り上げられていますので、今後の活躍が期待されます。

また、ヤングケアラーの問題についても現在、徳島県においてヤングケアラー支援マニュアルの作成が進められております。ヤングケアラーと思われる子どもを見逃すことなく気持ちに寄り添った支援を進めて行けるよう検討がなされています。

まだまだ十分な支援とは言い難いところもありますが、様々な支援を必要としている子どもたちへ手厚い支援がなされてきていることは大変喜ばしいことと思っています。

委員会としては上記の内容についても研修会において情報提供、情報共有をさせていただいておりますので、是非、興味をもってご参加いただければと思いますので、よろしくお願いたします。



認定資格スキーム(イメージ)



ハイブリッド形式で行われている研修会の様子



災害対策委員会

委員長 荻田 靖子

2024年元旦に発生した能登半島を中心とする地震は、災害は正月など人の営みに何ら忖度することなく発生するのだと痛感させられる出来事でした。被害に遭われた方々、今なお避難生活を余儀なくされている方々に心から哀悼とお見舞いを申し上げます。

徳島県では、南海トラフ巨大地震や中央構造線・活断層地震などの甚大な被害が想定される大規模自然災害の発生が懸念されています。徳島県を始めとする四国は周囲を海に覆われているため、巨大地震が発生すると外部からの支援が遅れる可能性があり、ライフラインの長期途絶が懸念されます。

一方、ソーシャルワークの対象になりやすい人たちは生活基盤が脆い方も多く、平時に何等かの支援を必要としている人たちは被災によりさらに生活のしづらさを抱える可能性が高くなってしまいます。そのような問題にアプローチしていくには地域を基盤としたソーシャルワークという視点が必要となり、刻々とフェーズが変化する中での個人や地域への支援はソーシャルワークを発揮する支援だと言えます。

委員会では、徳島県災害福祉支援ネットワーク会議や徳島県被災者支援推進ネットワーク会議、士業ネットワーク災害対策ワーキンググループ会議に参加して同業種、異業種間の繋がりを促進して参りました。また、四国ブロックの災害支援活動者養成研修に参加するなど、横のつながりも図っています。

災害発生時の緊急支援時期だけでなく、被災者が置かれた生活フェーズごとにニーズは変わっていきます。被災地での生活を立て直し、復興を進めていく主人公は誰なのか？

また、支援をするに当たり、その主人公の何を見つめていくべきなのか？能登半島地震から学ぶものはたくさんあり、我が事として考えていく必要があります。

平時の今だからこそ、一緒に考えつながっていきましょう。ご興味のある会員の方はぜひご参加下さいますよう、よろしくお願いいたします。



被災者支援推進ネットワーク会議の様子

リレートーク



鳴門市健康福祉部社会福祉課 石本 花衣

今までの事を振り返ると、私が社会福祉士になりたいと思ったきっかけのひとつに、「ボーイスカウト」の活動がありました。兄の影響で始めたスカウト活動では、さまざまな自然体験や奉仕活動の中で、幼いながらも、相手のことを思いやったり、自分が誰かの役に立つのがうれしい、という体験を重ねてきました。たくさんの地域の人に見守られ、育てられ、成長していくことができました。そして、いつの間にか「福祉ってなんだろう」という、疑問と興味を抱いたような気がします。進路を選択するときには自然に「福祉」の分野に気持ちが向いていた・・・といえは聞こえはいいですが、「福祉って何だろう」の答えは、まだ出ていません。

結婚を機に生まれ育った愛知を離れて、徳島に転居するという選択をした時には、社会福祉士の資格を持っている（何か仕事はあるだろう）ということと、日本中にボーイスカウトの活動があって、どこにいても繋がっている、仲間がいる、という安心感が背中を押してくれました。徳島で出会ったみなさんとは、転居したからこそのご縁、と思うと、不思議なものを感じます。

そして今でも、ボーイスカウトでは指導者（無報酬のボランティア）という立場で多くの子どもたちと遊んでいます。小1と中1の、2人の息子たちも楽しんでます。

自分の子どもだけでなく、関わっている子どもたちの成長が感じられる喜びもありますし、しかも、このような地域とのつながりは、行政の福祉職として働く今の自分も役に立っていることが多いな、と実感します。

幼いころから何となく感じている「福祉ってなんだろう」という疑問と、興味。これからも仕事の中でも、仕事以外でも、自分なりの答えを探し続けていきたいと思えます。ボーイスカウトにご興味があれば、ぜひ「ボーイスカウト鳴門第9団」のホームページやInstagramをのぞいてみてください。



次回、バトンは徳島県鳴門病院医療福祉相談室 服部 百恵さんに渡されました。

権利擁護センターばあとなあ徳島

権利擁護センターばあとなあ徳島では、成年後見人養成研修を修了した会員（2023年12月末現在：43名）が専門性を活かして行う後見活動への支援、権利擁護及び成年後見制度に関する広報啓発・相談活動、行政・専門職団体・社会福祉協議会等の関係機関との連携による権利擁護支援の地域連携ネットワークの構築に向けた取り組み等を行っています。

今後ますます成年後見制度の利用ニーズは高まるなかで、意思決定支援や身上保護を中心とした本人らしい生活と人生を支える権利擁護支援を地域で実践し続けるため、ばあとなあ徳島の機能強化や会員のスキルアップに一層取り組んでいきたいと考えています。

運営委員長 西條 志野

事業内容

- 権利擁護に関する相談事業
- 専門職他団体等との合同研修の開催
- 地域連携ネットワークの構築に向けた取組への参画
- 成年後見制度や権利擁護に関する会議・研修等への派遣
- 成年後見人等候補者の養成に関する事業
- 成年後見人等候補者の名簿登録に関する事業
- 家庭裁判所等からの依頼による成年後見人等候補者の推薦
- 定例会の開催
- 後見活動に関する業務監査についての体制整備と実施
- 「会員のしおり」の作成
- ML等を活用した情報提供や会員相互支援の強化
- 報酬助成事業の実施
- 県民・専門職等からの苦情・意見・要望への対応強化

2023年度 活動の一部紹介

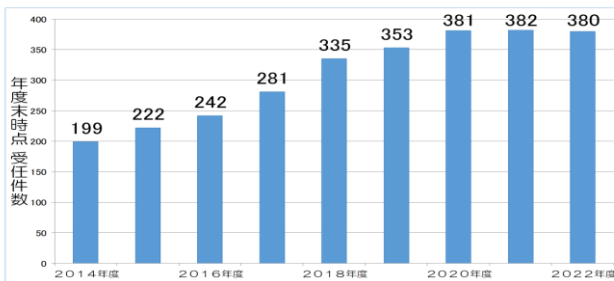
定例会

後見活動を担うにあたっての資質向上、会員相互の交流や情報交換を行うことを目的として、毎月定例会を開催し、様々なテーマによる研修を行っています。会員は、ばあとなあ徳島成年後見人等候補者名簿登録者として年3回以上の参加が義務づけられています。

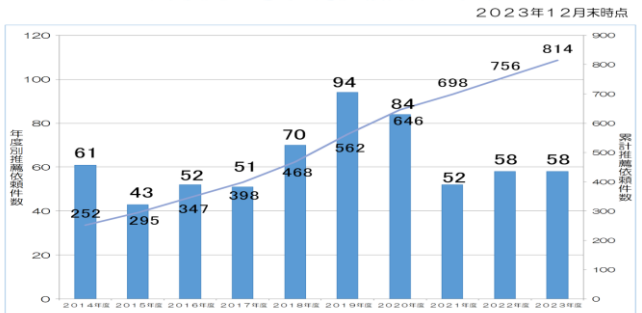
《2023年度の研修テーマ》

①倫理綱領の実践、②後見活動に関する悩みや疑問、③精神科病院における権利擁護の実践、④会員からの実践報告（初めての受任、相続財産清算人選任申立に至ったケース、本人と共に歩んだ10年間の後見活動とこれから）、⑤後見事務における相続財産の引渡し、⑥相続登記の義務化と国庫帰属制度、⑦家庭裁判所との連携、⑧介護支援専門員との連携 等

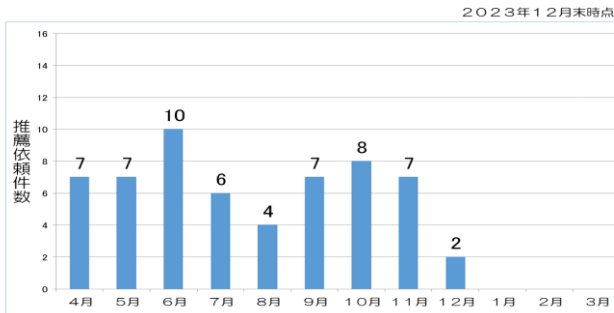
《グラフ1》 権利擁護センターばあとなあ徳島
成年後見人等 受任件数の推移



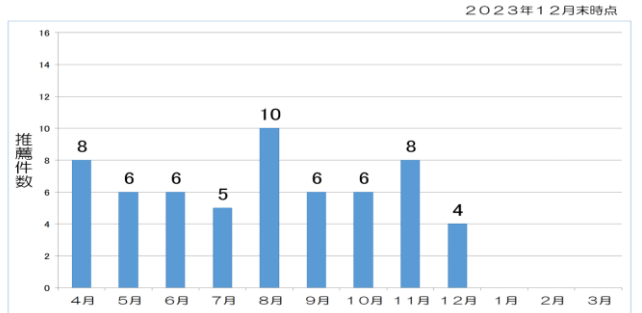
《グラフ2》 権利擁護センターばあとなあ徳島
成年後見人等 推薦依頼件数の推移



《グラフ3》 権利擁護センターばあとなあ徳島
2023年度 家庭裁判所からの推薦依頼件数



《グラフ4》 権利擁護センターばあとなあ徳島
2023年度 家庭裁判所への推薦件数



リーガルソーシャルワーク委員会

委員長 湯浅 雅志

2021年に新設したリーガルソーシャルワーク委員会は、リーガルソーシャルワークに関心を持つ会員を広く募り、関係機関や資源の概要、司法の基礎、更生支援、犯罪被害者支援などについて学んだり、2020年11月30日に徳島弁護士会との間で締結した「刑事弁護における社会福祉士の紹介に関する協定書」（※2023年8月22日付けで改定し、更生支援計画の策定等の報酬額や報酬の上限額が引き上げられた）に基づいた、社会福祉士派遣要請に即応できるよう、人材育成を行っていきたいと考えております。

具体的には、弁護士との情報交換、拘留中の本人との接見、関係機関や福祉サービスの調整、更生支援計画書の作成、公判での情状にかかわる証言、地域へのつなぎとアプローチ、などです。

手探りで進めている部分が多いですが、さまざまな事情により福祉サービスの利用にたどり着かなかった方に、手を差し伸べることができるようになります。

この関わりが、再犯や非行を未然に防止し、また、立ち直りを支えていくことにも繋がっていくと考えます。

会員の皆様には、「リーガルソーシャルワーク」にまずは興味をもって頂き、現職場や福祉的活動のなかで、「何ができるだろう…」と考えて頂ければと思います。

関心のある会員は、事務局までご連絡ください。



相談活動委員会



委員長 湯浅 雅志

相談活動委員会では、相談援助を行う専門職としての知識や技術を磨くための活動の場や個々のスキルアップ、会員間連携の促進や実践の蓄積などをおとした組織の活性化などを目的に活動しています。

メインの活動としては、偶数月の第2金曜日等にソーシャルワーク実践学習会と称して、県内各分野で活躍する会員等の方々に、実践事例や実践取り組みや本会の各委員会活動についてなど、ソーシャルワーカーとして興味関心があることなどの話題を提供していただき、スキルアップや人脈づくり、悩みを解消する機会となっております。

現在は、オンライン開催が多く、耳だけでなど気軽にご参加いただけます。また、社会福祉士でなくてもソーシャルワークに興味関心のある方はどなたでもご参加いただけます。その他にも医療ソーシャルワーカー協会や精神保健福祉士会、養成校等と連携してのソーシャルワーカーデーの開催なども行っております。随時ホームページ等に掲載してまいりますので、皆様のご参加お待ちしております。

また、相談活動委員を随時募集しております。上記の活動に加え、奇数月の第2金曜日に相談活動委員のみでの交流会（現在はオンライン）を開催しておりますので、関心のある会員は、事務局までご連絡ください。

ソーシャルワーカーデー2023inとくしま 報告



実践報告をされる浜田さん

ソーシャルワーカーデーは、社会福祉士や精神保健福祉士などのソーシャルワーカーの活動を推進・普及する活動で、2009年に「海の日」をソーシャルワーカーデーと設定し、全国でイベントが行われています。徳島県では、7月8日（土）に徳島県医療ソーシャルワーカー協会、精神保健福祉士協会との合同企画として開催しました。様々な現場で働いている3人のソーシャルワーカーの方から実践報告とディスカッションがありました。本会からは、浜田亜弓さんが、社会的養護経験者への支援と題し、社会的養護経験者の安全基地のひとつ「ほなな・ほーむ」での活動について実践報告をされました。

参加者からの感想

- ・社会福祉士として働く分野は幅が広く、自分の知らない分野についても知ることができた。
- ・改めてソーシャルワーカーの存在、役割意義を実感することができました。



国家資格等取得支援委員会では、毎年2月に実施される「社会福祉士・精神保健福祉士国家試験」を受験される方に試験科目の対策講座と社会福祉士全国統一模擬試験を実施しています。

2023年度は10月・11月の日曜日、連続4回の集中講座を行いました。多くの方が福祉現場や福祉に関する仕事に従事し、仕事の疲れと戦いながら熱心に受講されていました。福祉の専門職として活躍して下さることを願い、講師は現場での経験豊富な先輩社会福祉士や社会福祉士等養成校の教員が携わり、出題傾向の高い項目や用語、制度の歴史、試験パターンなどを分かりやすく伝える工夫をし、支援しました。

また、10月に実施される模擬試験では、緊張感のなか実際の試験の流れや時間を体験し、続く対策講座受講の動機を高めておられました。仕事と国家試験受験の両立は厳しいです。対策講座を活用していただき、1点でも正解を積み上げ、私達の仲間になってほしいと思います。

国家試験の受験者は減少傾向にあり、また、2025年7年から新カリキュラムでの試験に移行します。人材不足といわれる福祉現場ですが、ソーシャルワーカーを目指す方の資格取得の支援には会員の皆様の経験や知識を必要です。ご協力お願い致します。

基礎研修

基礎研修受講生インタビュー

基礎研修Ⅲ修了生 日本システム開発株式会社 伊祁 恵都嗣さんにインタビューしました！

Q1 基礎研修を受講した理由を教えてください。

社会福祉士に登録してから、その資格を生かした仕事に就くまでに、数年のタイムラグが発生することが想定されており、その間に、国家試験の取得だけでは身につけにくい、実践的な考え方やスキルを身につけるために、基礎研修を受講しようと考えました。

Q2 印象に残っている研修を教えてください。

基礎研修Ⅲの学びになると、受講者自身の体験を共有していただく機会が多くなり、業務経験がない私にとっては、現場での実践内容を学ぶことができる良い機会となりました。

Q3 今後の目標を教えてください。

福祉職への転職をした後に、今回の基礎研修で学んだ内容を新たな業務に活かしていきたいと思っています。



基礎研修Ⅲ修了生の皆さん

会員紹介 VOL. 3

ぱあとなあ徳島 林 朋代

私が社会福祉士を目指して大学に入ったのは、ちょうど介護保険制度が始まった2000年。「これからは福祉の時代だ」という盛り上がりの中で福祉大学や福祉学部があちこちでできた頃でした。そんな私たちに「社会福祉士は業務独占ではない、活躍の場が少ないから社会福祉士として働く機会はほとんどない」と揶揄する教授もいましたが、あれから20年余り。社会福祉士がその専門性を生かして活躍できる場は確実に増えました。私の場合は、1人目を出産して育休から復帰した先が地域包括支援センターでした。2人目出産後に家庭の事情で退職しましたが、それまでの約5年間のうちに得られた相談業務や地域支援の経験が、退職後本格的に始めたぱあとなあ徳島での成年後見活動でも活かされています。

今はワンオペになりがちな3人の子育てと業務量のバランスを見極めつつ、ぱあとなあ徳島での活動を中心に続けています。

育児がひと段落したら次は？子育て経験を活かす道もあるのでは？などまだまだ興味関心は尽きません。社会福祉士として、自分の興味や関心を追求できる場が増えていることや、経験を活かして活躍できる機会が広がっていることを実感する日々です。



四国地区社会福祉士合同研修会 報告

テーマ: 現実社会と向き合うソーシャルワーク 「たがいに・ささえあい・つながり」を目指して

12月9日(土)・10日(日)、愛媛県において四国地区社会福祉士合同研修会が開催され、徳島県から2名の方が実践報告をしました!

分科会「福祉経営」

「税理士からみた福祉経営」

児童発達支援事業所だけのこ 平岡 主税

四国地区の研修の発表を振り返って思ったことは、こうした事例発表は経験年数とか関係なく、発表する機会が与えてもらえるということでした。こうした発表に対応するには常日頃から色々と、考えて業務に取り組む必要があり、自分の考えたこと、実行したこと、起こったことが自分のものだけでなく、同じ資格を有し、同じ問題意識を有した同志の助けになるかもしれないと思い、今後も業務に取り組みたいと再確認した機会になりました。



実践研究

「ケアハウスにおけるソーシャルワーク実践」 ～エコシステム論に基づく社会資源開発～

社会福祉法人あさがお福祉会 清井 智子

実践研究の分科会で発表させていただきました。「研究」の意義は理解しつつも現実的には日々の実践が「研究」まで至っていない現状の中で、このような機会を頂き感謝しています。コロナ禍で人との繋がりが薄れ、孤独・孤立が深まった後に迎えた今「たがいに・ささえあい・つながり」の場をどうつくりだすか試行錯誤の日々です。発表を通して改めて地域共生社会の実現に向けて分野にとらわれずソーシャルワーク実践に邁進しよう! と思いました。



徳島県社会福祉士会 2024年度予定

事業・研修名	開催時期	事業・研修名	開催時期
基礎研修Ⅱ	6月～1月	国家試験対策模試	10月上旬
基礎研修Ⅲ	6月～2月	国家試験対策講座	10月～11月
第31回定時総会	6月下旬	ばあとなあ徳島名簿登録研修	3月上旬
第26回福祉実践セミナー	6月下旬	第27回福祉実践セミナー	3月下旬
ソーシャルワーカーデー	7月上旬	社会福祉士だより28号発行	3月下旬
基礎研修Ⅰ	9月～1月	第32回定時総会	3月下旬

相談活動委員会	奇数月の第2金曜日 偶数月の第2金曜日	委員会 ソーシャルワーク実践学習会
こども家庭福祉委員会	毎月第1水曜日	研修会
権利擁護センター ばあとなあ徳島	毎月第1火曜日 毎月1回	運営委員会 定例会
総務・広報委員会	不定期	編集委員会

編集日記

徳島県社会福祉士会だよりVOL.27をお読みいただきありがとうございます。今号は、県土会の今後の方向性・テーマを「未来につなぐソーシャルワーク実践」とし、7つの委員会とセンターより寄稿いただきました。

本誌が皆さまのソーシャルワーク実践の支えとなりましたらこれ以上の喜びはありません。県土会は皆さまの活動をバックアップいたします。共に活動していただける方の入会を心よりお待ちしております

(総務・広報委員会 縄井 未佳)

【発行責任者】湯浅 雅志

【編集】一般社団法人徳島県社会福祉士会総務・広報委員会